

項目		評価
A I. 教育課程	1. 教育目標	・新入生に対しては新入生説明会で、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で、教育目標を周知させた。 ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）の目標については、SGHのパンフレットを作成・配布し、生徒・保護者への周知に努力した。
	2. 教育課程の編成	・新教育課程の意義に則り、適切な運用・実施に努力した。 ・SGH指定校として教育課程の編成と内容の充実を努めた。 ・3学年1月の授業について内容と新たな実施方法を試みた。
	3. 年間授業日数・時数	・学校行事全般の意義を考えながら、必要な授業日数・時数の確保に努めた。月曜日の授業を3回他の曜日に振り替え、授業時数を調整した。
	4. 教育活動とその成果	・各教科とも適切な教育活動に努めた。特に数学の授業では今年度も加配（特別経費）により、少人数学級編成を行い、成果を上げることができた。
	5. 行事	・輝鏡祭実行委員会を通して適切な指導・助言を行って生徒の自治意識を高め、行事を企画・運営させた。事後の全校アンケートや各係、委員会の反省を踏まえ、来年度の運営の方針を定めるよう指導した。 ・指導部の管轄であった体育祭実行委員会の指導・助言を今年度は試行的に体育科が主となる体制を試みた。これにより、効果的且つ合理的な指導や行事運営が可能となった。
	6. 進路指導	・部長と部員の役割を明確化して、適切な進路指導に努めた。 ・過去の進学先のデータ整理し、また進路指導に関する書籍類の収集をした。 ・進路指導に関する情報を定期的に生徒に発信した。 ・チューター（お茶大・卒業生）による放課後の補習を行い成果を上げた。
	7. 研究・研修	・SGH指定校として、1年目の計画に則り、研究開発を推進した。今年度の反省をもとに来年度の組織づくり、計画の実施に向けて見直しを持つことができた。 ・公開教育研究会を開催し、日頃の成果を発表した。 ・校内研修会を8・10月に実施した。SGHをはじめとする複数のテーマを取りあげ、情報共有・ディスカッション等を行った。しかし、時間の制約等で議論を深められなかった面もあった。 ・大学と連携した授業研究等を例年通り進めた。 ・個人研究費を図書費・教材費・出張旅費などとして有効に活用した。
	8. 帰国国際教育	・留学・復学に関する手続きを適切に処理した。 ・SGHの活動の一環として、グローバル総合の授業と連携させた2件の海外研修を実施した。 ①生徒6名、教員1名が8/17～8/23にベトナム（ハノイ）で行われたイオン1%クラブ主催アジア・ユースリーダーズに参加した。 ②生徒29名、教員3名が10/22～10/25に台湾（台北）を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流、女性起業家による講演など研修を行った。 ・台北市立第一女子高級中学校と交流協定を締結し、チューラーロンコン大学附属中等学校（タイ）との交流協定締結に向けての手続きを進めた。 ・AFSを通じてマレーシアからの留学生1名を2年生に受入れ、日常的に異文化に触れる機会を設けた。 ・プラン・ジャパンの第3回「国際ガールズ・デー」記念イベントの一環として、ネパールから来日したユース（少女と少年）による講演会を実施した。
	9. 自治（会）活動の指導	・執行部・各委員会・各部に対し、活動を充実させるよう指導・助言を行った。 ・自治会予算が適切に編成・執行されるよう執行部会・合議会・総会等を指導した。
	10. その他	
A II. 学校運営	1. 経営・組織	・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を18回開催し、内規の改定、国際交流協定の締結、メーリングシステムの変更などを行うとともに、業務の軽減・改善等の課題について検討した。 ・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。
	2. 出納・経理	・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金（運営基金）・諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・創立130周年記念寄付事業を適正に管理し、寄付金を体育館の整備などに使用した。 ・SGH予算を実際の研究開発に合わせて変更しつつ、効果的に運用した。
	3. 施設・設備	・営繕要求の提出機会があり、グラウンドの全面改修をはじめとする10項目を営繕要求書として大学に提出した。 ・次年度に体育館の耐震補強の工事が決定した。 ・教育後援会の協力により、調理室のガス台の更新、音楽室の視聴覚設備の更新などを行った。 ・130周年記念寄付募金を活用し、体育館の暗幕・カーテンの設置などの整備を行った。
	4. 健康	・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持増進ならびに安全教育に努めた。感染症やアレルギー疾患の予防教育の他に精神科領域に関してリテラシー教育に力点を置いた。 ・2回の生活会議において教員間の共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーや精神科校医と連携しながら、個々の生徒に対する生活指導およびメンタル面の支援を適切に行った。
	5. 安全	・大学と連携してマンホールトイレの使用法の講習会を行った。また、大学全体の緊急メール連絡網システムに高校も加わり、試行的な運用を開始した。 ・安全管理体制を見直し、防災備蓄倉庫3棟の防災用品リストと配置図を点検した。 ・PTAを中心に生徒と保護者の災害時下校班を組織し、PTA総会時に保護者の顔合わせ、避難訓練時に生徒の顔合わせを行った。より実践的な防災対策とするために、PTA役員会において今後のあり方を検討した。 ・副校長が大学の防災対策WGの委員を務めた。
	6. 情報	・校内無線LANを整備し、授業等に活用する環境整備を進めた。 ・大学と連携して校内のネットワーク環境と情報セキュリティを見直し、今後のあり方を検討した。
	7. 開かれた学校	・SGHのページを追加するとともに、23件の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。 ・6月と9月に学校説明会を開催した。第2回は輝鏡祭と同時開催として集客を図った。 （参加者数-第1回：204組 363名、第2回：308組 584名） ・6月と11月に保護者授業参観を実施した。 ・学校評議員会を2回開催し、学校運営に有益な助言を得た。 ・学校関係者評価委員会を2回開催し、学校評価について有益な助言を得た。 ・8月に第18回中学生向け理数体験授業を実施した。8講座を開講し、103名の中学生が参加した。
	8. 入学検定	・入学検定を公正・適切に実施するよう努力し、実施した。 ・入試問題の作成過程では、さらにチェック体制を強化した。
	9. 保護者との連携	・PTA常任委員会や保護者会、学年・学級懇親会等各種行事を通じて、保護者との意志疎通に努めた。 ・PTAと教育後援会の役員懇談会を実施し、両組織の連携を図った。
	10. 学年活動	1学年 ・高校生としての自覚を持った行動をするよう呼びかけた。学校行事・部活動を通して自主自律の精神を学び、他者と協働できる態度を身につけるよう指導した。 ・卒業生のお話を聞く会やお茶大キャリアガイダンスを通じて、自分の将来像を考えることによって日々の学習に意欲的に取り組み、基礎学力の定着を含む学力の充実が可能となるよう支援した。 2学年 ・諸活動において生徒一人ひとりがリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、お互いの個性を尊重しつつ協働して目標を達成することができるよう働きかけた。 ・進路について考える機会を提供して個々の生徒の進路選択を支援しつつ、学習意欲を高め学力を向上させるよう指導した。 3学年 ・個性と能力を最大限に発揮し、自己実現に向けて計画的かつ主体的に進路選択ができるよう、個人面談等一人一人の状況に合わせて指導した。 ・生徒各人が意欲的に授業に取り組み、最終学年にふさわしい到達目標を目指して努力するよう積極的に指導した。 ・最高学年として様々な場面で適切な態度および行動がとれるよう支援した。

		11 その他	
B 大学の 連携	I. 大学と	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> 大学及び附属校園との連携研究を適切に行うよう努力した。 大学関係の研究調査依頼が1件あった。 高大連携実施委員会が5回開催され、高大連携特別教育プログラムの実施をはかった。 各教養基礎教科は大学教員とのカリキュラム研究を行った。 大学の公開授業をのべ92名の生徒が受講した。 「選択基礎」を7名が受講し、特別入試で6名がお茶の水女子大学に進学することになった。 学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスが全学部で実施された。 5附属校園間の連携研究として8つのテーマによるグループが立ち上がり、12名が参加した。 大学院高度教育研究副専攻履修の学生3名を数学科・保体科・家庭科が受け入れ、研究に協力した。 東京工業大学サマーチャレンジに3年生6名が参加した。特別選抜には3名が合格し、さきがけ教育を受講した。 12月にウィンターレクチャーを実施した。 大学のサマープログラム(英語)を高校生(のべ12名)が聴講するなど、グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材の育成の試みを始めた。
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> 大学や附属学校園との授業交流を行うよう努力した。家庭科2年生授業で、ナーサラー主任保育士・幼稚園副園長の特別講義を行い、ナーサラー・幼稚園を見学した。 教養基礎の国語・数学・英語、日本史・家庭科および総合的な学習の時間で、大学の教員による授業を実施した。
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> 前期35名、後期27名の教育実習生を受け入れ、教育実習および事前・事後指導を通じて、教科指導の専門性や教員としての資質・能力を向上させるべく指導に努めた。 文化祭や学校説明会の運営補助などを通して、登壇実習以外の教員の職務を経験させ、実習をより有意義なものとした。 教育実習専門部会において実習生の実態を報告し、問題を未然に防ぎ、より有意義な実習となるよう、大学と附属で連絡を密にすることを確認した。
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> 各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。附属学校園連絡進学WG、中高連絡進学検討会で連絡進学のあり方についても検討を行った。
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> 6教科8名の教員が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含めて、その効果が上がるように実施した。 教科教育法以外の授業(5科目)を4名の教員が担当した。 11月に教育実践演習の一環として学生54名の学校見学を受け入れた。
		6. インターンシップ	2014年度該当なし
		7. その他	<ul style="list-style-type: none"> ケルン大学からの交換留学生を英語科のインターンとして受け入れた。
II. 社会 貢献		1. 授業参観 研修生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの授業参観・学校訪問等を14件受け入れた。他に海外(台湾・タイ)からの訪問も2件受け入れた。
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業担当者の工夫と日頃の研究成果を社会に発信した。
		3. 初任者研修・現職研修	2014年度該当なし
		4. 途上国支援	2014年度該当なし
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotで閲覧できるようにした。 SGH指定校として、報告書および生徒論文集を作成した。
		6. 各種研究会への協力	<ul style="list-style-type: none"> 講師等派遣依頼が14件あった。学外からの研究調査依頼が4件あった。 学内外の研究会等に積極的に参加した。また、これらの団体に対し、施設貸与等も積極的に行った。 施設貸与：英語科関係(10)、全付連関係(2)、体育館等(3)、テニスコート(6)
		7. その他	<ul style="list-style-type: none"> A F Sを通じて受け入れた留学生に対し、お茶の水女子大学大学院日本語教育コースの協力を受け、日本語の支援を行い、留学生生活をサポートした。 プラン・ジャパンの第3回「国際ガールズ・デー」記念イベントの一環として、ネパールから来日したユース(少女・少年)による講演会を実施した。

2014(平成26)年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 研究・研修(A-I-7)

- SGH指定校(1年目)として研究開発に取り組む。
 - ⇒ SGH指定校として、1年目の計画に則り、研究開発を推進した。今年度の反省をもとに来年度の組織、計画実施に向けて見直しを持つことができた。
 - 12月に学外活動の報告会、3月に課題研究の成果発表会を開くとともに、研究報告書、生徒の論文集を作成した。

2. 帰国・国際教育(A-I-8)

- SGHの活動の一環として、台北、ハノイ(イオン1%クラブ主催、アジア・ユースリーダーズのプログラム)での海外研修を行う。
 - ⇒ SGHの活動の一環として、グローバル総合の授業と連携させた2件の海外研修を実施した。
 - ①生徒6名、教員1名が8/17~8/23にベトナム(ハノイ)で行われたイオン1%クラブ主催アジア・ユースリーダーズに参加した。
 - ②生徒29名、教員3名が10/22~10/25に台湾(台北)を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流、女性起業家による講演など研修を行った。
 - 台北市立第一女子高級中学、チューローンコン大学附属高校との交流協定締結を進める。
 - ⇒ 10月に台北市立第一女子高級中学校と交流協定を締結した。
 - 1月にチューローンコン大学附属中等学校(タイ)を訪問し、交流協定締結に向けての話し合いを行い、大筋で合意した。

3. 施設・設備(A-II-3)

- 校舎・体育館・校庭などの改修・整備を大学に要求し、実現に向けて努める。
 - ⇒ 営繕要求の提出機会があり、グラウンドの全面改修をはじめとする10項目を営繕要求書として大学に提出。次年度、体育館非構造部分の耐震補強工事決定。
- 創立130周年記念寄付募金を活用し、教育環境整備等の記念事業を行う。
 - ⇒ 130周年記念寄付募金を活用し、体育館の暗幕・カーテン設置などの整備を行った。

4. 安全(A-II-5)

- 防災対策を中心に、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。
 - ⇒ 大学全体の緊急メール連絡網システムに高校も加わり、試行を開始した。今後の活用については大学側との協議が必要である。
- 生徒に対する安全管理に関する指導を適切に行う。PTAと連携して災害時下校班の組織化を検証する。
 - ⇒ PTA常任委員会において災害時下校班のあり方を検討した結果、次年度は下校班の編成を見送り、より実践的な防災対策を検討することとした。

5. 連携研究(B-I-1)

- グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材育成を図る。
 - ⇒ 大学のサマープログラム(英語)を高校生が聴講するなど、グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材の育成の試みを始めた。
 - 留学生の高校授業参加や、大学のe-Learningシステムの高校生の利用開始など、高大連携の幅が広がった。